聖日礼拝プログラム

司会者 中西廣義兄　奏楽者 渡邉頼子師

讃　美	新 70	朝日は昇りて	一　同
主の祈り			一　同
讃　美	新291	神の国と神の義を	一　同
交　読	詩　篇	111：1～10	一　同
祈　祷			司会者
報　告			司会者
聖　書	I列王3：1～28		司会者
説　教	「神の知恵を求める」		渡邉貞雄師
献　金	新289	空の鳥も	小坂栄子姉
頌　栄	新 63	父、御子、御霊の	(起立) 一同
祝　祷			渡邉貞雄師

受＝岡山姉／操＝真理姉／A＝福田姉／報＝牧師

今週のみことば

善悪を判断してあなたの民をさばくために、聞き分ける心をしもべに与えてください。

I列王記三・九

〒515-0044 三重県松阪市久保町1445-7 COG松阪キリスト教会
TEL 0598（29）1780　主任牧師 渡邉貞雄
FAX 0598（29）1791　牧師 渡邉頼子

2024年8月25日 VOL48-34 No.2495
URL http://matukyo.com
Email sadao@mctv.ne.jp

ご報告・消息欄

▼ 本日は8月を締めくくる最後の聖日礼拝です。暑さの残る中でも整えられて、秋に備えさせていただきましょう。また組会は讃美を中心とした「合同組会」となります。

▼ 9月の「教会奉仕者表」ができました。ご確認とともに、ご協力をよろしくお願いします。

▼ 来聖日9月1日(日)は、COG創立73回目の創立記念日となります。また礼拝では聖餐式の予定です。

▼ 「COGよき道ニュース版」（8月号）が届きました。

▼ 9月1日（日）午後に「関東教区・信徒セミナー」が開催。今回は群の創立者レイモンド・シェルホン師(総理)の映像を交えた内容となります。
時間：PM 2：00～4：00迄

にれはみ

２０２４年８月１８日
聖　日　礼　拝
Ⅱサム６：１～２３
「喜び踊るダビデ」
説教　渡邉貞雄師

サウル王とヨナタンが戦死し、ダビデはイスラエル全家の王となった。そこで尽力したのが首都エルサレムの防衛と整備(水道)、また「神の箱」を迎えて宗教的中心とすることでした。

Ⅰ、全家の喜び

ダビデは新時代の幕開けとすべく盛大なセレモニーを計画、精鋭３万人を繰り出した(１)。また「新しい荷車」で「神の箱」を搬入した(３)。国威発揚と国家の威光と力を内外に誇示し、全家を上げての行事を実行した(５)。

しかし牛がよろめくことまでは、誰も予想しなかった(６)。側にいたウザは傾き倒れそうな「神の箱」に、不注意にも触れて主の怒りをかった(６～８)。そして不敬の罪で息絶えた。

Ⅱ、ダビデ王の喜び

ダビデは「どうして」(９)と恐れを抱いた。主が怒られた理由は①人の手で運ぶべき「神の箱」を牛と荷車で運んだこと。聖書ではレビ族の祭司たちが運ぶべきであった（Ⅰ歴代１５：１）。②牛車に載せて運ぶのは、ペリシテ人の習慣であった。長く異教の地に放置していた間に、神の前でのあるべきルールが失われてしまったと考えられる。

豊かさや盛大さ、人間の便利さと欲望が中心になる時、神の前でのルール(律法)は、もろくも陳腐なものに変色してしまう。ダビデは６歩進んだ時(１３)、感きわまった喜びに包まれて踊った。私たちの信仰の６歩も、この喜びにつながるものでありたい(１３)。

Ⅲ、家族の喜び

ダビデは家の者にも祝福を願った(２０)。しかし、妻のミカル（サウル王の娘）は、ダビデの喜びを共有せず、皮肉たっぷりなことば（下品、ごろつき、恥ずかしい格好）で、冷水を浴びせかけた(１６)。

家族が心を１つにして喜ぶことのできない現実の悲しさをここに見る。しかも高い窓から(１６)、人を見下し物言う姿に、ミカルの哀れな姿を覚える。しかし、それにも関わらずダビデは、「主の前」で（１４、１６、１７、２１）踊ったのであった。ダビデは「女奴隷たちに敬われ」たいとの、謙った喜びの心に満たされていた(２２)。

私たちの信仰は「神の箱」に臨在される、インマヌエルの神との生きた交わりを喜ぶと恵みである。このことを感謝して歩む者とさせていただこう。

ソロモンとは…

紀元前１０世紀、ヘブライ人を統合して成立したヘブライ王国（イスラエル）の第3代の王。ダビデ王の子で、伝承によれば前９６０年ごろ王位継承があった。エジプトのファラオの娘を王妃に迎え、またフェニキア人のティルスと同盟を結び、フェニキア人の交易活動を保護してオリエントの大動脈を抑え、周辺諸国との交易で巨富を築き、「ソロモンの栄華」と言われた。

ソロモンの栄華

ソロモンはエジプトからバビロニアへ、地中海からインドへと彼の領土内を通ずる通商路を支配する要地を強化した。エジプトからは亜麻布の糸や、よく訓練された戦車用の馬を輸入して、レバノンの高価な木材やアラビアの香料と交換した。……フェニキア人の支配者はソロモンの事業を援助した。北から南へ、東から西へと、通商はパレスチナを通って行った。

ソロモンは、その政策による保障の代償として、隊商からは貢納をとり立てたし、彼自身もさまざまな通商旅行への参加を軽視しなかった。彼の国庫は溢れんばかりになり、オリエントの珍しい獣や商品は、今までに無かったほどエルサレムに多く見られるようになった。宮廷はその洗練された組織と多数の官吏とで、目もくらむばかりだった。王のハーレムの大きさは、話の種になった。遠くから王侯たちが、この最も賢明な王に会いにきた。首都は大きくなり、変っていった。材料の供給や熟練した細工人はフェニキアから得ると共に、労働力には現地人を強制的に徴募した。

エルサレムにヤハウェ神殿を建設

父のダビデは、モーゼがシナイ山で神から与えられた契約を納めたとされる「契約の箱」をエルサレムにもたらしたが、ソロモンはそれを祀る祭壇を建設した。これはヤハウェ神を国家の守護神として祀ることで、ユダヤ教の象徴的な場とされることとなる。しかし、同時にこれによってユダヤ教の内省的な側面は次第に薄れ、神官を中心とした儀礼宗教という性格が強まり、一部には荒野でひたすら神の声をききながら、悔い改めることを説く預言者が反発を強めることとなる。また、ソロモンはそのほかに壮麗な宮殿も建設したので、民衆への重税が課せられ、反発を受けて死後に王国は南北に分裂してしまった。

ソロモンとシバの女王

旧約聖書にはソロモンは大変な知者としても描かれており、『詩編』や『箴言』は彼の作品と擬せられている。また、シヴァの女王（アラビアの南方、現在のイエメンか。シェバまたはサバとも表記する）がソロモンの知恵を確かめようとやってきて難問を投げかけたが、彼はそのすべてに難無く応えたので、女王はソロモンを褒め称え、たくさんの金と香料、宝石を贈ったという話が、旧約聖書王上10章に載っている。

ヘブライ王国の分裂

ソロモンはたいへんな知者であり、国家を栄華に導いたと言われるが、宮殿や神殿の建設は人民からの重税にまかなわれたからか、その死（前６３１年、前６２２年、前９２２年とも言われる）に際し、民衆の反乱が起こった。王位はレハブアムが継承したが、ユダー族の支配に反発した北部の民衆は、別にヤロブアムを王に立てイスラエル王国として分離した。南のイェルサレムのユダー族はレハブアムをその後も王として、ユダ王国となった。こうしてヘブライ人の国家は分裂した。

◎祈祷会　8/21（水）「すべてに時が！」

渡邉師　伝道３：１～８、１７

この猛暑で卵が値上がりし、セミもあっという間に姿を消し、春夏秋冬に咲く花々も困惑している感じです。パウロは「時が良くても悪くても」、主の業に励むようにと勧めた。

私たちの「時」の概念は、「遅れた」「早過ぎた」と、しばしば後悔や苛立ち、そして嘆きとなることもある。

しかし、このみことばは神が「時」の主権者で統治者であり、私たちの営みは、神がグッドタイミングに設定されているとある。そうであれば私たちは、その「時」の意味を深く考察し、神の御旨を「ナイスキャッチ」する信仰が必要となる。どんな所、時にもこの信仰の目線を忘れずに、歩ませていただこう。

「今後の集会予定／教会情報」

◎8／28(水) 祈祷会 (ZOOM) (PM7：00)
◎8／31(土) 清 掃 奉 仕 (AM9：30)
◎9／ 1(日) 楽しい組会 (AM10：00)
◎9／ 1(日) 聖 日 礼 拝 (AM11：00)

◆…祈 祷 会 (司) 岡 山 姉 (説) 頼 子 師

● 来週礼拝 Ⅰ列王１２：１～３３
● 主　題 「主に聴く大切さを!」

定 期 集 会 の ご 案 内

◇楽しい組会 (日) 午前10：00～10：45
◇聖 日 礼 拝 (日) 午前11：00～12：00
◇早天祈祷会 (火土) 朝６：30～ 7：00
◇祈　祷　会 (水) 午後７：00～ 8：15

来　週　の　奉　仕　者

◎ 礼 拝 司 会	渡 邉 師
◎ 礼 拝 奏 楽	頼 子 師
◎ 礼 拝 献 金	山 口 姉
◎ 受　　付	幸 子 姉
▽ 教 会 学 校	随　時
▽ ヤ ン グ	随　時
▽ さー来る①	当　日
▽ さー来る②	当　日
▽ さー来る③	当　日
▽ 昼 食 当 番	な　し
▽ アッシャー	小 坂 姉
▽ ＳＳ入力	中 西 兄
▽ ＰＰＴ操作	中 西 兄

《《《２０２４年 松阪教会スローガン 「新しいぶどう酒を心に！」》》》
「新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れます。…両方とも保てます。」マタイ９：１７

礼拝の心得

①聖書のヨハネ４：２４に「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」とあります。
②始まる時間と５分前の着席を心がけ、奏楽や賛美を聞きながら心の準備をし、待ち望みましょう。
③賛美は感謝の心をもって、主をたたえつつ歌いましょう。
④語られる言葉(メッセージ)の背後にある、神のことばに耳を傾けま しょう。
⑤献金は神への感謝を具体的に表現するものです。心から喜んでおささげしましょう。
⑥その他、携帯音を止めておいたり足音や会話にも心を用いて出席しましょう。
⑦やむを得ず礼拝を休む場合は、牧師（教会）に連絡をしましょう。